

## 「コンクリート技術に関するJSCCE-VCA ジョイントセミナー」がホーチミンで開催される

コンクリート委員会  
浅本晋吾（埼玉大学）  
ファン ハウ ユイ ウオック（清水建設（株））

2013年9月19日と20日にベトナムのホーチミンにおいて、ベトナムコンクリート協会（Vietnam Concrete Association）と土木学会コンクリート委員会とのジョイントセミナーが開催された。土木学会コンクリート委員会では、過去に台湾、モンゴル、韓国、ベトナム、スウェーデン、ギリシャ、トルコでジョイントセミナーを行っている。ベトナム



写真1 挨拶をするベトナムコンクリート協会会長  
Le Quang Hung博士

については、2012年のハノイで実施したセミナー（日本貿易振興機構と共催）に続いて、日本のコンクリート技術の紹介、ベトナムにおけるコンクリート技術報告が行われた。

セミナーは、ベトナムコンクリート協会の会長であるLe Quang Hung氏（写真1）と副会長のNguyen The Hung氏、日本側団長の河野広隆氏（京都大学教授）の挨拶で始まった。

2日間のセミナーで約150人のベトナムの研究者や技術者が参加し、日本側から7件、ベトナム側から2件の講演が行われた。日本側の講演では、河野広隆氏が日本のコンクリート技術の変遷とコンクリート標準示方書について、谷口秀明氏（三井住友建設（株））がコンクリート標準示方書施工編の概略とコンク

リート施工の基本について、小川洋二氏（日本ヒューム（株））がプレキャストコンクリート技術について、鈴木良和氏（ジャパンパイル（株））が

節杭の特徴、適用性について、浅本晋吾氏（埼玉大学准教授）が収縮、クリープの予測について、奥山康二氏（電気化学工業（株））が吹き付けコンクリートの技術について、多田克彦氏（太平洋セメント

（株））が高流動・高強度コンクリートの技術について講演した。ベトナム側からは、ベトナムのコンクリート技術の概要、Mekong川の砂を用いたコンクリートの問題についての講演がなされた。今回の日本側の講演内容はベトナム側からの具体的なリクエストに基づいたものであり、昨年度のセミナーに引き続いて、日本の示方書への関心が高まっている



写真2 質問に答える河野教授

と言える。出席者からは日本の技術に関して多数の質問が出された（写真2）。

質疑応答中、ベトナムでは他国のさまざまな基準を翻訳して現場ごとに異なる基準を使い、古い基準と新しい基準が混在している状況があり、他国の基準を単に翻訳して基準化するのではなく、日本のようにベトナムに合った独自の基準を整



写真3 セミナー関係者集合写真

備するべきだという意見がベトナム側から出た。また、今回の講演は2007年版の示方書に基づいた内容であり、2012年版の示方書の英語版発刊について、ベトナム側の興味も高く、早期の英語化が期待されていた。最後に、今後のベトナムのコンクリート技術発展のためにも、今後も日本側と同様のセミナーを開催したいと、ベトナムコンクリート協会から強い要望を受け、セミナーは盛況に終わった。

なお、本ジョイントセミナーは、公益信託土木学会学術交流基金による助成を受け、実施されたものである。ここに記して謝意を表する。

## 「地域レポート—各地の会員から」 のお知らせと投稿のお願い

土木学会誌では、全国各地で活躍しておられる会員からの情報発信のページとして、投稿原稿「地域レポート」を募集しています。会員の居住、勤務する地域における活動を御紹介ください。

具体的には、会員の皆様に関わられたプロジェクト、技術・研究開発、地域連携、技術者・学校教育等、土木技術者の興味関心を得るような土木に関する広範な話題、また地域施設の開業・開通、災害やその復旧など、時宣を得た内容の原稿を期待しております。海外における活動も歓迎します。投稿に関する詳しい規定は学会ホームページを参照ください。

積極的な投稿をお待ちしています。

(土木学会誌編集委員会)

執筆要領等詳細については、  
右記 HP をご参照ください。

<http://committees.jsce.or.jp/mag/toukou/annnai>